

倶 多 楽

○ 11 月の火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状況です。

○ 11 月の活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 2～4）

10 月 30 日（前期間）及び 11 月 2 日に現地調査を実施しました。また、11 月 13 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

日和山山頂部の噴気孔からは、これまでと同様白色の噴気が認められました。地獄谷爆裂火口、大湯沼及び奥湯沼の状況は、前回(2007 年 5 月)と比較して変化はありませんでした。

なお 5 月 3 日から大正地獄で発生しているごく小規模な泥混じりの熱湯の噴出は、その後も消長を繰り返しながら継続しています（登別市による）が、これらの現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・ 地震活動（図 1、図 5、表 1）

地震活動は低調に経過しました。火山性地震及び微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 6、図 7）

GPS 繰り返し観測では、火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

○ 噴火警報、噴火予報の発表状況（12 月 6 日現在）

気象庁は平成 19 年 12 月 1 日より、倶多楽について噴火警報及び噴火予報の発表を開始しました。それに伴い、12 月 1 日に以下のような噴火予報を発表しました。

なお、噴火警報、噴火予報と噴火警戒レベルについては気象庁ホームページを参照ください。

・ 活動状況及び予報警報事項：平常

火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。倶多楽の噴火予報・警報は、噴火予報（平常）です。

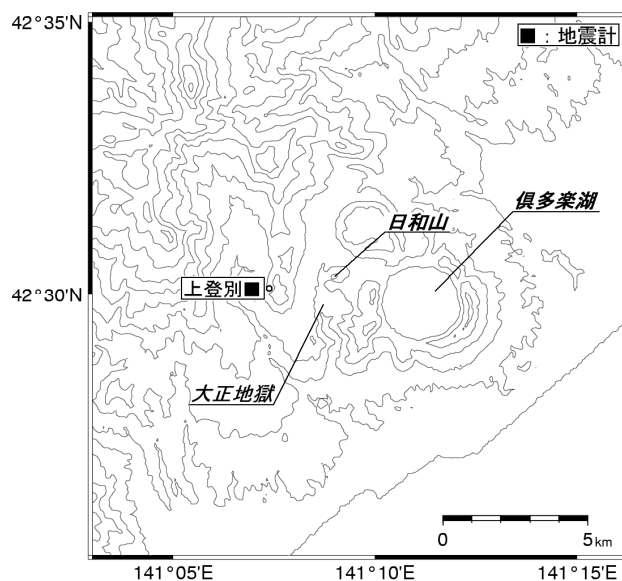


図 1 倶多楽 地震計配置図

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

資料中の地図の使用に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総複、第 650 号）。

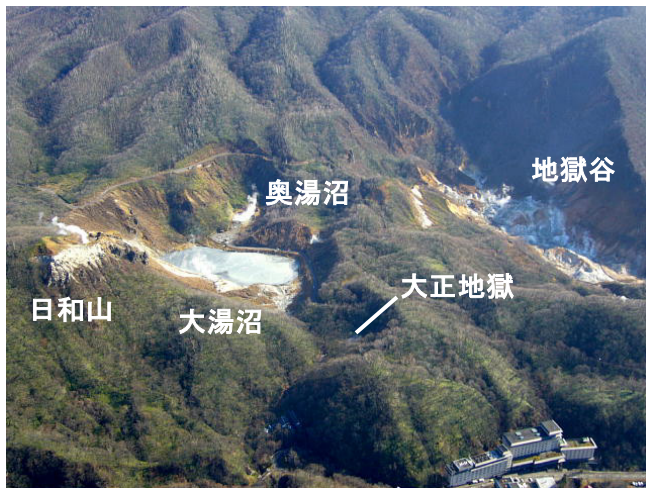


図 2 倶多楽 日和山・地獄谷周辺の状況
(2007 年 11 月 13 日 図 3 の①方向から撮影)

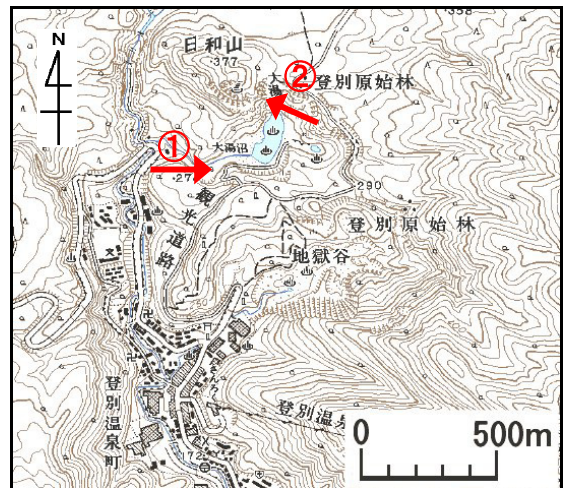


図 3 倶多楽 日和山・地獄谷周辺図

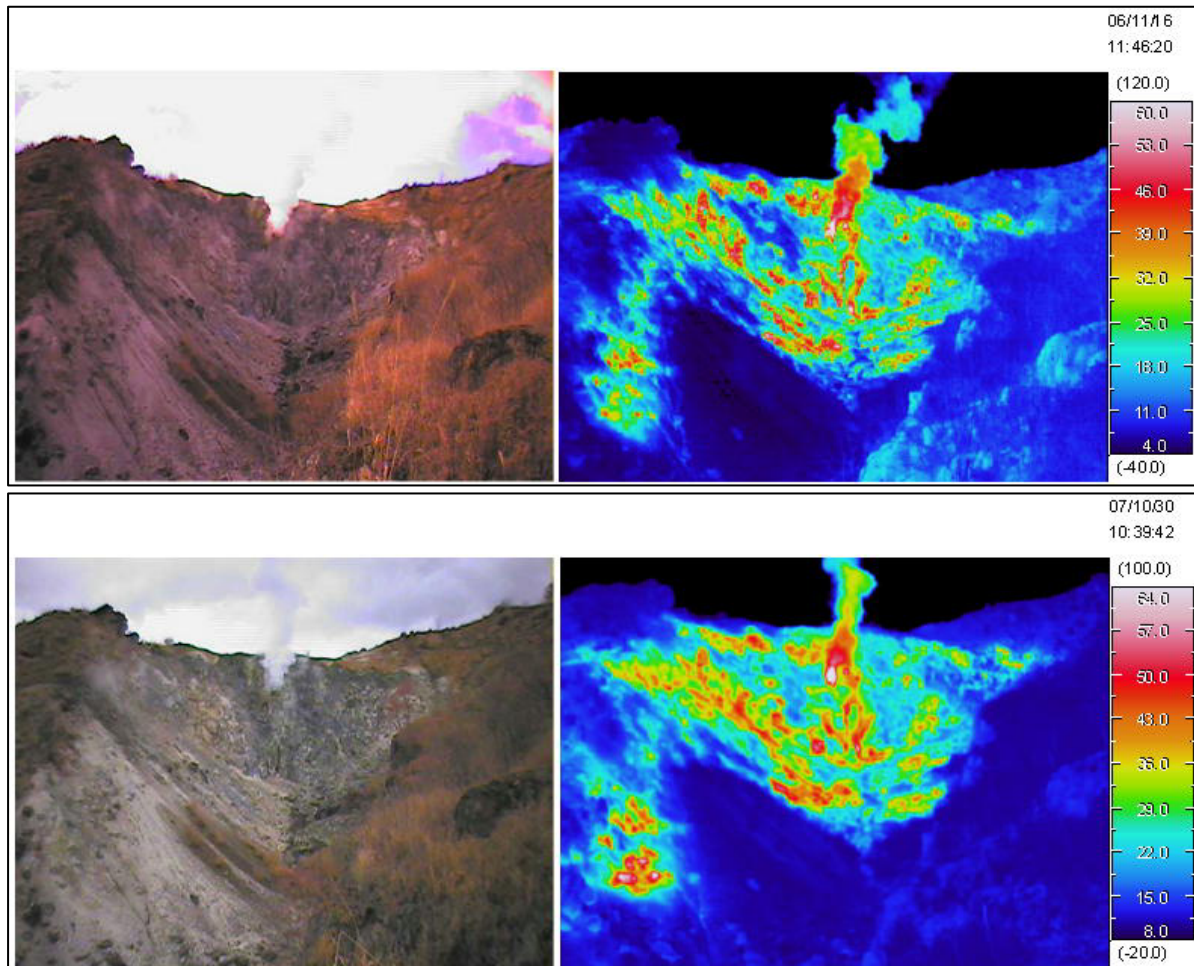


図 4 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による日和山山頂部北西側噴気孔の地表面温度分布
(上：2006 年 11 月 16 日 下：2007 年 10 月 30 日 図 3 の②方向から撮影)

- ・ 日和山山頂部の噴気孔からは、白色の噴気が 20～30m 程度上っていました。噴気温度は 131℃（直接測定）で、前回（2006 年 10 月）まで約 120℃で推移していた状態から約 10℃上昇していました。
- ・ 地獄谷爆裂火口、大湯沼及び奥湯沼の状況は、前回（2007 年 5 月）と大きな変化はなく、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも地熱域の状況に変化は認められませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表 1 倶多楽 地震・微動の月回数（上登別）

2006 年 10 月 1 日～12 月 22 日まで欠測

2006～2007 年	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
地震回数	>2	8	4	1	2	0	1	1	12	0	15	0
微動回数	>0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

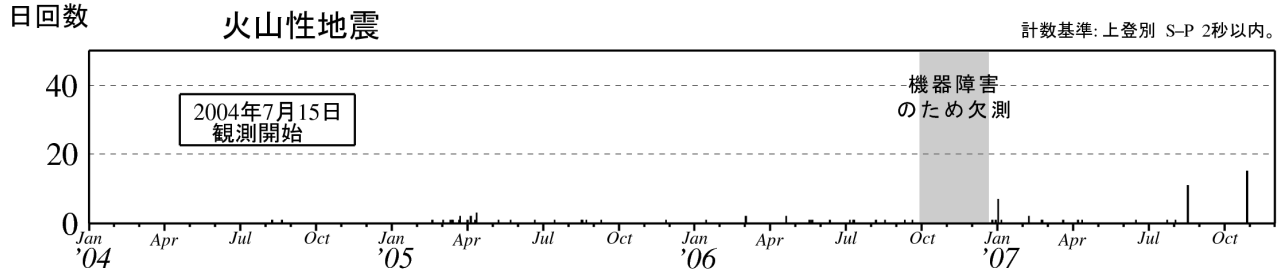


図 5 倶多楽 日別地震回数（2004 年 7 月～2007 年 11 月）

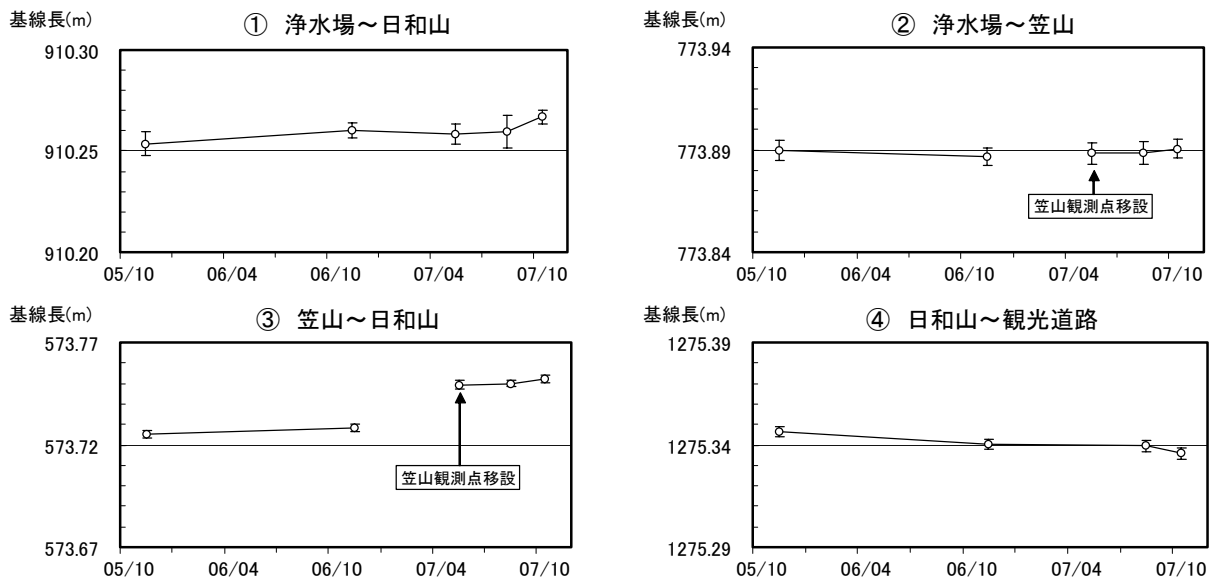


図 6 倶多楽 GPS 繰り返し観測による基線長変化（2005 年 11 月～2007 年 11 月）

図 6 の①～④は、図 7 の GPS 基線①～④に対応しています。

- GPS 繰り返し観測では、2005 年～2007 年の 11 月の観測値を比較するとほぼ一定の変化をしていることから、火山活動によると考えられる変動はなかったと考えられます。



図 7 倶多楽 GPS 繰り返し観測点配置図